

3. 2 教育体制・産業界ニーズ 把握体制整備

(1)連携事業推進グループ活動報告

1. グループ事業の取組

産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業では、中部地域 23 大学と連携して、「アクティブ・ラーニングを活用した教育力強化」と「地域・産業界との連携力強化」が行える教育プログラムを形成することになっている。豊橋創造大学では、社会人基礎力を養成すべき資質として位置づけ、そのための4つの教育プログラムを実施する。そして、その成果や失敗を広く開示するとともに他大学と共有することにより、よりよい教育体制を構築する。連携事業推進グループは、このような実施事業の成果と失敗の公表と他大学との連携を図り、本学における教育体制の整備を進める。また、実施する教育プログラムを教育効果の高い教育プログラムに改善するために、連携事業推進グループでは、学生の社会人基礎力の評価方法と教育への展開方法を検討し実施する。さらに、社会人基礎力養成プログラムの実施成果を他の授業に展開して、学生に早期の意識付けや態度・志向の養成を進める。

以上のようなグループ活動を目的として、平成 24 年度は、連携事業の取りまとめ、学内教員への周知、教員の行事参加による意識や教育スキルの改善などに取り組んだ。社会人基礎力の評価については、プロジェクト活動やインターンシップなど学生の活動にもとづいて評価する仕組みと学生にフィードバックする方策を検討した。また、自己理解促進グループが実施する総合的評価（PROG：リアセック提供）によるアセスメントとの複合的評価方法を検討する。これらの利用方法や科目への展開は平成 25 年度に検討実施する予定である。

<<主なスケジュール>>

日程	実施事項
10月26日	第1回東海 A（教育力）チーム 時間：10：00～12：00 場所：名古屋商科大学大学院伏見キャンパス E21 教室 参加者：佐藤、三好、今泉、今井、村松東、遠山
11月17日	中部地域大学グループ全体会議 時間：13：00～17：00 場所：名古屋商科大学大学院伏見キャンパス E31 教室 参加者：三好、今泉、村松東、若松 第2回東海 A（教育力）チーム 時間：14：50～15：50 場所：名古屋商科大学大学院伏見キャンパス E31 教室 参加者：三好、今泉、村松東、若松
12月7日	第3回東海 A（教育力）チーム 時間：10：00～12：30 場所：名古屋商科大学大学院伏見キャンパス E21 教室 参加者：佐藤、今泉、村松東、遠山
1月	社会人評価シートによる学生の社会人基礎力評価 評価者は学生自身、教員、他メンバー。 社会人評価シートに基づく、教員面接と助言、自己行動計画の作成

	指導教員による学生プロジェクト指導成果報告書の作成 (地域企業連携プロジェクトグループが実施)
1月17日	第4回東海A(教育力)チーム 時間：10:00～12:00 場所：名古屋商科大学大学院伏見キャンパス E21 教室 参加者：今泉、山口、村松東、中村
2月8日	東海A(教育力)チーム連携FD会議 時間：13:30～17:00 場所：椋山女学園大学 星ヶ丘キャンパス椋山人間交流会館 1F 講義室 参加者：三好、見目、三輪、野口、村松東
2月9日	東海B(産業ニーズ把握)チーム 連携FD会議 時間：13:30～17:00 場所：名古屋産業大学 文化センター大ホール 参加者：見目
2月13日	学内プロジェクト総括会議による指導方法の共有と考察 情報ビジネス学部全教員参加
2月19日	中部圏産学連携会議 時間：13:00～17:00 場所：名古屋会議室プライムセントラルタワー13階 参加者：佐藤、今泉、中野、遠山
3月	プログを用いた学生の社会人基礎力の評価 (自己理解促進グループ実施)
3月2日	大学教育改革フォーラム in 東海 2013 時間：10:00～18:30 場所：名古屋大学東山キャンパス ES 総合館ほか 参加者：三好、見目、今井、山口、遠山

2. 活動成果

上記のように、連携事業推進グループの役割は、実施される4つの教育プログラムの成果を踏まえて教育体制の整備と産業界ニーズの把握体制を構築することである。また、成果や失敗を他大学と共有することにより、学生事業の推進や改善を図ることが本グループのもう一つの役割である。

平成24年度は、連携事業推進グループの補助事業全体における役割が明確化した。その役割に基づいて、学内の成果および失敗を取りまとめ連携大学に報告するとともに、他大学の状況の報告を受けて学内事業の考察を進めた。連携FDや中部圏産業ニーズ把握会議に専任教員が参加して、事業目的やその実施意義や方法についての認識を深めた。高い割合で、専任教員がこれらの事業に参加した。また、補助事業で展開する教育プログラムのみならず、他科目への展開方法や社会人基礎力の評価方法の検討を始めることができた。また、事業実施内容を大学教育改革フォーラム in 東海 2013 で発表報告した。

3. 実施事業を踏まえた次年度の方策

連携事業推進グループの役割は、以下の4つを担うことになっている。

- 評価方法および指導方法の検討
- キャリア成果授業へ展開
- 学外へ公開
- 学外情報を学内へフィードバック

事業実施の内容や成功事例、失敗事例の公表を行うとともに、他大学と連携してこれらの事例を整理して、学内制度整備方法の検討を行う。地域企業連携プロジェクトや3者間協働インターンシップなど学生が実際に行う活動に対して評価する場合と総合的アセスメントであるPROGによる評価の関係性を明らかにして、評価方法の検討を行う。また、それらの評価に基づく指導方法を検討・実施する。また、これらの評価と指導方法を踏まえた他の科目での指導方法を検討する。